

飛躍に向けて 経営基盤の構築を進めてまいります

2017年3月期第2四半期の業績について

国内ではものづくり補助金が後押しとなり、第1四半期以降、受注・売上ともに持ち直しの動きが見られました。海外では、北米は自動車関連からの需要にやや一服感が見られましたが、医療機器・航空宇宙関連の需要が引き続き堅調に推移しました。欧州は、ロシア等で減速感が見られましたが、全体的には底堅く推移しました。中国は高精度な機械の需要の回復が見られましたが、東南アジアでは経済減速の影響などにより依然として厳しい状況が継続しました。第2四半期の業績については、売上高は概ね計画(8月10日 業績予想修正)通りに推移しましたが、為替が急速に円高に推移したことにより営業外費用において為

替差損を計上した結果、経常利益、当期純利益については大幅な減益となりました。

取り組みと成果について

工作機械事業においては、4月より欧米地域で精密金属3Dプリンタ「OPM250L」の販売を開始するなど積極的な営業活動を展開致しました。産業機械事業においては、世界初となるアルミ合金対応の射出成形機を開発し、新たな需要の創出を図るなど、中長期的成長に向けた取り組みができたと思います。食品機械事業においては、今年4月に加賀事業所で新工場の稼働を開始し、拠点集約による生産効率の向上を図ったほか、研究室を新設し研究開発機能を強化しました。



代表取締役社長
金子 雄二

通期の業績見通しについて

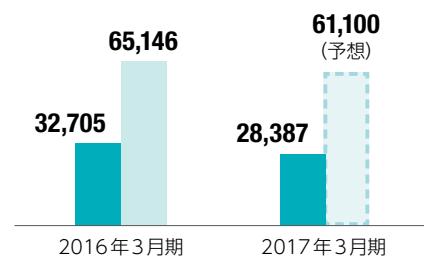
通期の業績見通しについては、英国のEU離脱問題や米国での大統領選挙結果など、世界経済に及ぼす影響が懸念されるほか、欧州・中東での地政学リスクや為替変動リスク等もあり依然として先行きに不透明感があります。下期に

おいては、引き続き厳しい経営環境が予想されますが、足元では総じて受注状況が回復傾向にあり、特に中国では、スマートフォンや車載関連向けの高精度機の需要の増加が見込まれています。また日本、欧米の先進国市場においても、航空宇宙、医療機器、自動車関連向けの需要が底堅いことから引き続き堅調に推移する見通しです。

連結損益計算書の概要 (単位:百万円)

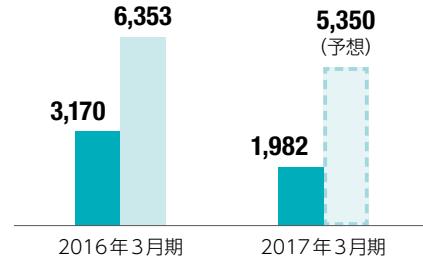
売上高

■ 第2四半期累計 ■ 通期



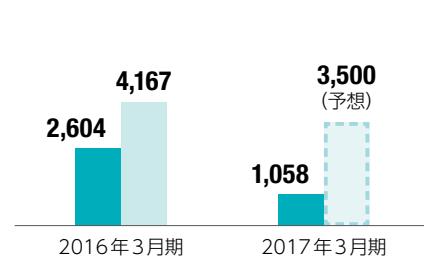
営業利益

■ 第2四半期累計 ■ 通期

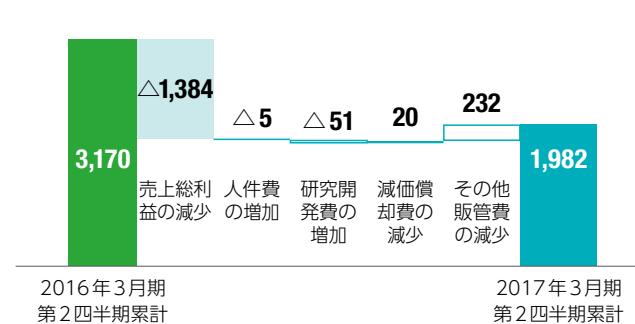


親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益

■ 第2四半期累計 ■ 通期



営業利益変動要因



地域別の売上高構成

